

高精度測位プロジェクト 実証実験成果報告会

「行き案内(乗換案内シリーズ)」実装結果ご報告

2017/03/14



Li事業部 研究開発部長
平井 秀和

『行き案内』 基本画面／ナビ画面



「行き案内（乗換案内シリーズ）」は、GooglePlay で公開されているアプリで、電車やバスの乗換案内に加え、駅から目的地までの「徒歩ルート」を音声と地図でナビゲーションするアプリである。

検証は本アプリに屋内測位と屋内地図表示の機能を加え、関係者限定で実証実験を行なった。

屋内測位・屋内地図の検証画面①【新宿駅周辺】



検証は新宿駅周辺を実際に歩いて行なった。

<検証アプリの動作>

- ・ 検証エリア付近の地図に移動すると、階層メニューが表示される。
- ・ 屋内測位で階層情報（B1F等）を取得すると、対応する階層の屋内地図が自動的に表示され、GPSに替わり屋内測位の位置情報を表示する。

屋内測位・屋内地図の検証画面②【東京駅・成田空港・日産スタジアム】



新宿駅エリア以外は、実地検証は行わず、
屋内地図の表示のみを検証した。

検証結果①



- 地下街で現在位置がなかなか取得できないことが多い。
→ しばらく同じところを何度か歩いていると取得できた。
- 位置が取得できたとき、実際の位置より10数mずれていることがある。

検証結果②



- 新宿駅南口（バスタ新宿の甲州街道を挟んで反対側）で、バスタ新宿4Fの位置が取得されてしまう。

- 屋内測位のSDKを使用して検証アプリを開発したが、測位ロジック（必要なビーコン数や計算式、またタイミングなど）の仕様が不明で、どのような場所で位置情報を特定できるのか十分な検証が行なえなかった。位置特定のロジックを明示いただけると、検証をやり易くなると思う。
- 上記と関連するが、屋内測位のSDKから返ってくる情報に「精度」があると使い易い。測定された位置は取得したビーコン数などにより精度に差があると推測されるが、精度が低い情報であっても精度と共に位置情報が返ってくるとアプリ側で表示の切り分け行え、よりよいUIを提供できると思う。
- これも上記と関係するが、「Jスマートナビ」の表示と比較しながら、検証を行なったが、結果や更新のタイミングが異なることが多く、疑問が残る検証となった。
- 精度が付加されれば解決される課題かもしれないが、新宿駅南口でバスタ新宿の位置情報が取得されてしまう問題は、信頼性に関わるのでサービス提供にあたっては極力解決したい課題だと思う。